

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
		学際連携特別講義 (Special Topics on Interdisciplinary Collaboration)					共通科目	オンライン(オンデマンド型)					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
理工:必修/ 教育・経済: 選択	2	1	全研究科共通	前期・後 期	木6	日本語		複数(共同)、オムニバス					
担当 教員	氏名 小林祐司, 坊向伸隆, 山本隆栄, 大森雅登, 榎田雄二, 衣本太郎, 姫野由香, 永野昌博, 佐藤晋治, 木村雄一, 小林隆志, 浅山良樹, 朝井政治, 滝口真, 河野伸子, 松下幸之助 E-mail ykoba@oita-u.ac.jp 内線 2028												
授業 の概 要	不確実で急速に変化する社会情勢や時時刻々と変化する多様な社会的ニーズへの対応,そして持続可能な社会を構築するためには学際的,分野横断的な思考を養わなければならない。そのために,我々を取り巻く社会や環境を構成する様々な分野との関わりを理解し,学部の理工融合教育で修得してきた基礎的能力をさらに発展させ,理工学分野および個々の専門分野がGX,DX,そしてSociety5.0に代表される社会的課題に対して何をなすべきか,「理」との関わりも含めてその役割と課題解決の意味を理解する。そして,研究への展開を図るための基礎的能力を修得することを目的とする。												
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1 今日社会および環境の課題について説明でき,かつ理工学分野および専門分野の視点から関係性を説明できる。													
目標2 理工学分野および専門分野が社会の諸課題に対してどのように貢献できるか,果たすべき役割について説明できる。													
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
		各DPへの関連度(計10)					4	3	3				
授業の内容													
1 ガイダンス,我々を取り巻く環境の理解(小林 祐司)													
2 社会的課題に数理情報工学分野が果たす役割,数理科学との関わり(坊向 伸隆)													
3 社会的課題に機械工学分野が果たす役割,物理学との関わり(山本 隆栄)													
4 社会的課題に電気電子工学分野が果たす役割,エネルギー物質科学との関わり(大森 雅登,榎田 雄二)													
5 社会的課題に応用化学分野が果たす役割,化学の関わり(衣本 太郎)													
6 社会的課題に建築工学分野が果たす役割(姫野 由香)													
7 社会的課題に環境工学分野が果たす役割,生物学及び環境科学との関わり(永野 昌博)													
8 社会的課題に社会安全工学分野が果たす役割(小林 祐司)													
9 「教育」の社会的課題とその対応(佐藤 晋治)													
10 社会的課題に経済学が果たす役割(木村 雄一)													
11 最新医学の現状と動向(小林 隆志,浅山 良樹)													
12 社会的課題に福祉健康工学分野が果たす役割(朝井 政治,滝口 真,河野 伸子)													
13 オープン・イノベーションの現状と課題(松下 幸之助)													
14 研究倫理,知的財産(松下 幸之助)													
15 講義のまとめ(小林 祐司)													
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認		各回の小テストに関する事例調査など				工 夫 そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		社会的課題や各種施策に関する調査等(30時間)										
	事後学修		講義で学んだ事柄について,理工学分野と専門分野の関係や役割についての整理,小テストの実施(30時間)										
	想定時間合計		60										
教科書	適時関連資料を配付します。												
参考書	適時関連資料を配付します。												

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
		小テスト	100%									
注意事項	講義を受講後，小テストに解答すること。											
備考												
リンク												
	URL											